



潮香だより

「つながり」を大切に…

8月28日(水)～30日(金)の3日間、5年生は「いわき海浜自然の家」で宿泊活動を行ってきました。また、9月25日(水)は、4年生が小名浜方部小学校音楽祭に参加しました。この2つの行事は、小学校生活の中で大きな意義を持つ学習です。

リンゴの木は、リンゴの木だけで生きているわけではない。周りの自然の中で生かされている生き物なわけだ。
人間もそうなんだよ。人間はそのことを忘れてしまっ、自分だけで生きていると思っている。
※注 石川拓治(2008)「奇跡のリンゴ」幻冬舎より引用

この言葉は「絶対不可能」と言われたリンゴの無農薬栽培に、8年間の試行錯誤の末に成功した青森県のリンゴ栽培農家 木村秋則 という人の記録『奇跡のリンゴ』からの引用です。

この言葉を私なりに解釈しますと「自然の生態系の中で育っていたリンゴも農薬を撒くことで自然からの『つながり(生態系)』を切り離して育てることになってしまった。そのため品種改良・害虫駆除等における味のおいしさはあるが、リンゴ本来が持っていた生命力を感じる味ではなくなってしまった。人間も同じように、人との『つながり(関わり)』の中で成長してきた。しかし最近『つながり(関わり)』を持たないまま成長することが多いため、自己中心的・無関心な人が多くなってきた。そのため人として自立・協力して生活するための「生きる力」が育たなくなってきた。」と言っているのではないのでしょうか。

このことを宿泊活動や音楽祭におきかえて考えてみると、家にいれば何の不自由・心配もなく過ごすことができ、学校の登下校も地域の方に安心・安全に見守られて「自分しか見えなかった」「自分のことしか考えなかった」子どもたちも、今回の班活動や全体で創り上げる合奏を通して「周りの人と協力し、自分で考えて行動すること」の大切さに気づいたのではないのでしょうか。それとともに友達・家族・地域の存在『つながり』にも気づき感謝したのではないのでしょうか。

子どもたちを取り巻く環境(都市化・少子高齢化における人間関係の希薄化、情報化社会における間接体験や疑似体験の増加等)は著しい変化を遂げています。このような時代だからこそ人との『つながり』を通して「生きる力」を育むことが必要となってきます。そのためにも学校教育においては直接経験等の『つながり』に結びつく集団活動や体験活動の充実が必要であると考えます。

10月は学習発表会をはじめ学校でも様々な体験学習等を予定しています。これらの機会を通して、人との『つながり』、地域との『つながり』をより深めていければと考えています。

児童の作文より

「音楽祭で心に残ったこと」 4年 K・T

トップバッターだったので、とてもきんちょうしました。ぶ台に立つとドキドキしました。だけど、曲の演そうが始まると、少しずつきんちょうしなくなってきました。

ほかの学校の4年生が私たちの演そうをきいてくれたり、大きなはく手をしてくれたりしてうれしかったです。

みんなの心が一つになれた演そうができてよかったです。



「二つの学んだこと」 5年 R・M

この三日間でボディボードや野外炊飯など楽しい活動がいっぱいあって良かったけど、やっぱり学んだのは、仲間との協力と自分をもう一度見つめ直してみるということです。特に野外炊飯などでは、一人だけでどンドンやるのではなく、仲間と協力して動いたほうが仲良くなるきっかけにつながったかもしれないし、さらに仲良くなったかもしれないと思う。だからまず、仲間と協力することが一つ目です。

二つ目は自分のことです。しかられる時に友達と一緒にだと、友達のせいにする事ができるけれど、一人だと誰のせいにもできないので、自分の行動に責任を持つことが大切だとわかりました。

この宿泊活動で、この二つのことをこれからの生活に生かしたいと思いました。



野外炊飯
「焼きそば作り」

友情を深めた
「キャンプファイヤー」